

# みはま支援学校学校運営協議会（令和5年度 第4回記録）

開催日時：令和6年2月7日（水）9:30～11:30

出席者：委員6名、事務局（本校職員4名）、  
紀南教育事務所1名

議事：①開会

②活動報告（学校長）学校評価報告（教頭）

③講話「学ぶことの意味について改めて考える」（会長）

④協議「みはまの取組で大事にしたいこと」

協議会趣旨：

みはま支援学校の児童生徒の育ちを支えるため、学校や家庭、地域が互いの役割を確認し、協働して特色ある学校づくりを推進するとともに、児童生徒も大人も共に育ち、育て合う取組の推進を図る。

## 活動報告 学校評価報告

前回の協議会以降に取り組んだ学校の活動（宿泊学習、外部講師による授業等）、職員研修（他校種への参観等）について報告をしました。また、児童生徒・保護者・教職員による学校評価の結果について報告しました。

### 【活動について】

子どもたちが目標を達成していく体験は大切。それを支えている教職員の研修も大切。

### 【学校評価について】

二学部児童生徒の「学校は楽しいですか」という質問に9割が楽しいと答えている。反面、少数の意見の聞き取りも大切。

結果から先生は相談にのってくれている様子があり、通いやすい学校の雰囲気伝わる。

「授業がわかりやすい」と答えている子どもが10割。工夫された授業づくりができている。

## 講話「学ぶことの意味について改めて考える」

前回、上野会長より「体験の学びをフィードバックして、子ども自身にどう意識づけていこうか」という意見をいただきました。今回、このテーマでお話いただきました。

### 【内容】

○21世紀は知識基盤社会と言われて久しい。教師も学び続けることが求められている。

○学びを支えるためには振り返るという行為は

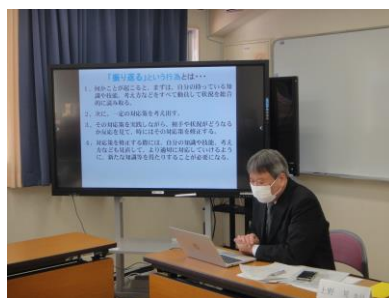
①何かことが起こると自分が持っている知識や技能、考え方をすべて動員し、状況を総合的に読み取る

②一定の対応策を考え出す

③その対応策を実践しながら、反応を見て時にはその対応策を修正する

④対応策を修正する際には、自分の知識等を見直し、より適切に対応していけるよう新たな知識等を得たりすることが必要となる

○学校では学級運営や学習指導で「子どもたちによりよいものを提供しよう」とこのような振り返りが行われている。また、日常の中で「こういうことをやってよかった」と思う瞬間がある。そのことをいかに意識できるかが大切である。子どもたちの成長につながったという実感が教員の次への意欲につながる。振り返りは私たちの学びを深め、豊かにする。



## 協議「みはま支援学校の取組で大事にしたいこと」

今後、学校が大切にしたいことを発言いただきました。

- ・「明るく、はきはき」がよいといわれると、できない子は自己肯定感が下がる。「自己肯定感」をあげるためといって、大人の自分の勝手な価値観を社会の価値観として教えない。「社会の中でこうであるべき」というバイアスがかかっていることを大人は意識する。
- ・実際にやってみて、気づくことが身になっていく。自分のものになっていく。支援学校では「やりたい」と思う体験ができる機会を設けることを考えていけばよいと思う。
- ・障害や病気がありながら自立していくということを教えてもらいたい。
- ・小・中・高の授業を見学したということを開き、学校内だけで研修を積み重ねるだけでなく、外で力を付け子どもたちへ還元しようとする取組は素晴らしい。地域の中でみはまの専門性を発揮して交流していければ。
- ・学校運営協議会はテーマを決めて本音を語り合えるような会になればより充実する。

### 【学校運営協議会について（各委員より）

- ・参加させていただき、逆に気づきを持たせてくれる良い機会となっています。私も支援学校の啓発に日々意識して働いていきたいと思っています。
- ・私は進路と広報でお手伝いできると思っています。広報を考える場や実際に作業する場をつくっていただけたら嬉しいです。
- ・様々な職種の方々に構成され、様々な角度から意見をきかせていただき、私自身も大変参考になります。自らの組織の活性化にもつながっていただければと感じました。
- ・年4回時期もちょうどいいと思います。

